

宮崎アカデミーロータリークラブ会報

第 154 回例会 2025 年 5 月 27 日

■例会場：宮崎大学 地域デザイン棟

会長 伊達 紫 副会長 水居 徹 幹事 辻 清

■ 会長の時間

伊達 紫 会長

いろいろな気づきや学びが得られると思います。



会長挨拶

皆さん、こんにちは。
私どものロータリー年度も残すところ
1 カ月余りとなりました。

やり残したことが多くあると思いますが、残りの期間精一杯頑張りたいと思っておりますとともに、今年度の活動に関する検証もしっかり行いたいと思っております。

前回は、GW に読んだ本のお話を準備していましたが、前の日に高鍋ロータリークラブの会長さんが出ずっぱりでした「川南町の町おこし」のテレビ番組を観たことから、「本のはなし」はいったんお蔵入りとなったのですが、今日は今日とて、メディアでも紹介されました昨日の DEI 研修についてと先週行った大阪出張での話をすることにしたため、「本のはなし」は再びお蔵入りとなりました。

さて、昨日は岡岡会員の授業と当クラブがコラボする形で、DEI に関する研会が実施されました。場所は新しくできた「宮崎大学ひなたキャンパス」でした。男女共同参画政策アドバイザーをお務めでもあるオフィスビューの高崎 恵さんを講師に、対話型の講演とグループワークが行われました。帰り道、参加されていた瀧さん、中野さん、辻さんが話をされていたのを後から盗み聞きましたのですが、「この研修受けるのと受けないのとでは、人生変わるよね」みたいな内容でした。そこで、私が覚えている限りのエッセンスをみなさんにお伝えしたいと思います。

まず、知らないことやできないことは恥ずかしいことではなく、周りの人に助けを求めることはとても重要だということ、「(人)と違う」とことは「間違い」ではないことがとても重要だというお話がありました。人と異なる意見を言えずに思考を内在化させてしまうことの要因の一つは「同調圧力」であること、また、日本人の若者の自己肯定感は世界的にも低く、「私なんて……」というフレーズがよく聞かれること、それは教育上の問題が大きいといったお話がありました。

また、コミュニケーション(話し合い)の際に大事なものは、「You メッセージ」ではなく、「I(アイ)メッセージ」で話をすることが強調されました。「You メッセージ」では、「早く〇〇しなさい」というように、攻撃的な主張になってしまうこと、一方「I(アイ)メッセージ」では「私は〇〇〇〇だと思うので、早く〇〇をした方がいいのではないかと思います」というように、土台をしっかり説明した上で自分の主張を述べると、それは対話型のコミュニケーションとなり、新しい展開にもつながる、といった内容が示されました。

後半のグループワークでは、学生と当ロータリークラブからの参加者が mingle し、「I(アイ)メッセージ」でそれぞれの「違い」を楽しむことができました。機会があれば、参加されていない皆さまもぜひ参加されてはいかがでしょうか。

全く別件ですが、先週久しぶりに 2 泊 3 日で大阪出張に行ってきました。

大阪駅がやたらきれいになっており、大阪人も迷子になっていた状況で、もし、大阪に行かれる方は、予習をして出かけられるとよいと思います。また、万博の影響やインバウンドの増加も相まって、ホテル料金が高騰しておりました。なんとかリーズナブルなホテルに泊まれたのですが、1 泊目の午前 1 時ごろ、火災報知機が鳴り、指示されるままパジャマのまま避難するといった事態に巻き込まれました。出火原因はとも、身近なモバイルバッテリーだったとのこと、預ける手荷物に入れないなど、あらためて注意が必要だと思いました。残念ながら万博には行けませんでした。小学生のころに出かけた 1970 年の大阪万博の思い出に浸っていました。

通常例会での会長挨拶も残すところあと 1 回、果たして「本のはなし」ができるのか、乞うご期待。

■ 幹事報告

辻 清 幹事



① 国際ロータリー第 2730 地区
2027-2028 年度ガバナー決定について
笹山ガバナー並びに大迫ガバナー指名委員長より各クラブへ報告文書が届いています。
2027-2028 年度ガバナー
稲留 孝男 氏
(川内ロータリークラブ)

② きもつきロータリークラブの事務局移転について

6 月 2 日より

鹿屋市札元 1 丁目 22-46 ハピネス札元 1F

③ 2025.5.13 第 153 回例会での米山奨学とロータリー財団募金報告について

米山奨学 2,876 円

ロータリー財団 1,437 円

④ 中野会員の地区役員選出について

(2025.5.13 第 11 回理事会報告)

ロータリー財団部門

ロータリー平和フェロシップ委員会 所属

⑤ 退会届について

(2025.5.13 第 11 回理事会報告)

原田会員、ロウチュウミン会員より退会届が提出されました。理事会にて承認されましたので 2025.6.30 付けて退会されます。

■ 出席報告

出席向上・会員増強選考委員会 中野 敦 会員



会員数 33 名
出席者数 18 名
欠席者数 15 名
出席率 54.55%

第 153 回例会修正
会員数 33 名
出席者 18 名
メイクアップ 0 名
修正出席者数 18 名
修正出席率 54.55%

■ 卓話

中野 敦 会員



皆さん、こんにちは。本日の卓話を担当します、宮崎大学の中野敦です。今回は私の米国留学についてお話しさせていただきます。2022 年 10 月から約 2 年の間、米国カリフォルニア州のカリフォルニア大学アーバイン校 (UCI: University of California, Irvine) に留学させて頂きました。いわゆる UC 系列大学 10 校のうちのひとつです。オレンジカウンティにあるアーバイン市は日本に居るとなかなか聞きなれない地名ですが、地中海性気候に恵まれた一年中温暖な気候で、北米で最も安全な地と言われています。キャンパスはアーバイン市の中心部に位置し、広大で緑豊かな自然の中にありました。学生数は約 36,000 人程度で、アジア系学生が 47%、白人・ヨーロッパ系学生が 27% を占めるようです。ちなみにアーバイン市に在住するアジア系移民は大変裕福な家庭環境にある学生さんたちです(残念ですが日本人は除く泣)。

工学系である私は Interdisciplinary Studies 部門が提供する学際的研究プログラムに参加させて頂きました。伝統的な学術研究の枠を超えた研究者が集まるプログラムです。研究室は UCI flood Lab に在籍し、教授 1 名、研究スペシャリスト 1 名、Ph.D.2 名、大学院生 2 名と私の合計 7 名のメンバーで活動していました。研究内容はカリフォルニアの洪水と侵食に関するシミュレーション技術について取り組みました。

また、米国には家族全員 (5 名) で移住しました。移住後にわかったことですが、アーバイン市の教育レベルはとても高く、この水準の高い教育を受けるために世界各国から移住してくる人々も多いようです。3 名の子供達はアーバイン学区にある現地公立学校に転入しました。転入当初は順応するに大変苦労していましたが、米国文化、学校風土、自由な校則を肌で感じ圧倒されて、今では米国の方が気に入っているようです。そして何より「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」を

実践してきたことが、彼らの未来にとって大きな強みになると思っています。また、異国の地で家事と育児に奮闘した妻の話も。英語科卒である彼女は、私の想定をはるかに超えて UCI が提供する語学留学プログラムにエントリーしました。私の妻が UCI の女子大生になったのです。中東やアジア系の若い留学生達に囲まれて 6 ヶ月間のプログラムを修了し、妻には称賛と感謝しかありません。今振り返れば、私は大学院生、妻は女子大生、子供達は生徒といった立場で、家族 5 名全員が学生生活に奮闘した大切な 2 年間でした。

家族旅行 Road Trip については、また Note します。ありがとうございました。



UCI: University of California, Irvine



UCI Flood Lab,
Dr. Sanders Group

